



令和2年11月4日

蒲刈中学校だより

発行：呉市立蒲刈中学校
文責：校長 柿林 浩彦

第20号

学校関係者評価委員会を行いました

～上半期のアンケート結果を受けて～

蒲刈中学校の学校教育目標は、「未来を切り拓く生徒の育成」です。その実現を目指して、「少人数だからできる教育・蒲刈だからできる教育の創造」を経営理念とし、様々な教育活動を実施しています。

これらの教育活動を改善・充実させていくため、年2回（前期・後期）、生徒及び保護者対象に学校評価アンケートを行うとともに、学校外の方から評価していただいております。

10月16日（金）には、第2回小中合同学校関係者評価委員会を行いました。短時間ではありましたが、授業の様子を見ていただいたのち、各学校の自己評価を基に、前期の取組の結果及び改善策を説明しました。その後、各委員の皆様から次のようなご意見をいただきました。これらは今後の教育活動の改善に資する貴重なご意見です。具体的に対策を考え、改善策を実践し、子どもたちの成長を目指していく所存です。

- ・統合してもみんな楽しくやっていてうれしく思いました。
- ・子どもも増えて、賑やかになってうれしい。楽しそうでもあったし、元気な声であいさつしてくれました。
- ・机にシールドがされていて良かった。修学旅行はよく決断されました。ありがとうございます。
- ・統合してもコロナの影響があってどうなるかと思った。落ちついて対応していると思った。行事が少なくなっているので、子どもたちのモチベーションを高めてほしい。
- ・自己評価が低い項目はコロナの影響があるが、客観的に分析されていてよく分かった。
- ・ふるさと学習を中学校ももっとやってほしい。
- ・働き方改革を進めて、子どもと向き合う時間が増えていることは良かった。
- ・コロナで評価しにくいことは仕方ないが、悪いところは次に生かしてほしい。
- ・達成率が低い読書については、もうちょっと工夫してほしい。
- ・特別支援学級は枠にとらわれず、とても工夫されていました。

また、生徒及び保護者の皆様のアンケート結果は次のようになっております。

肯定的な評価が高い項目もありますが、まだまだ低い項目もあります。これらについても校内でしっかり分析し、対策を講じていきたいと考えております。また、蒲刈中学校で学んで良かったと思っただけのよう、10点満点の評価も更に向上させていきたいと考えております。学校への要望がありましたら、いつでもお知らせください。よろしく願いいたします。

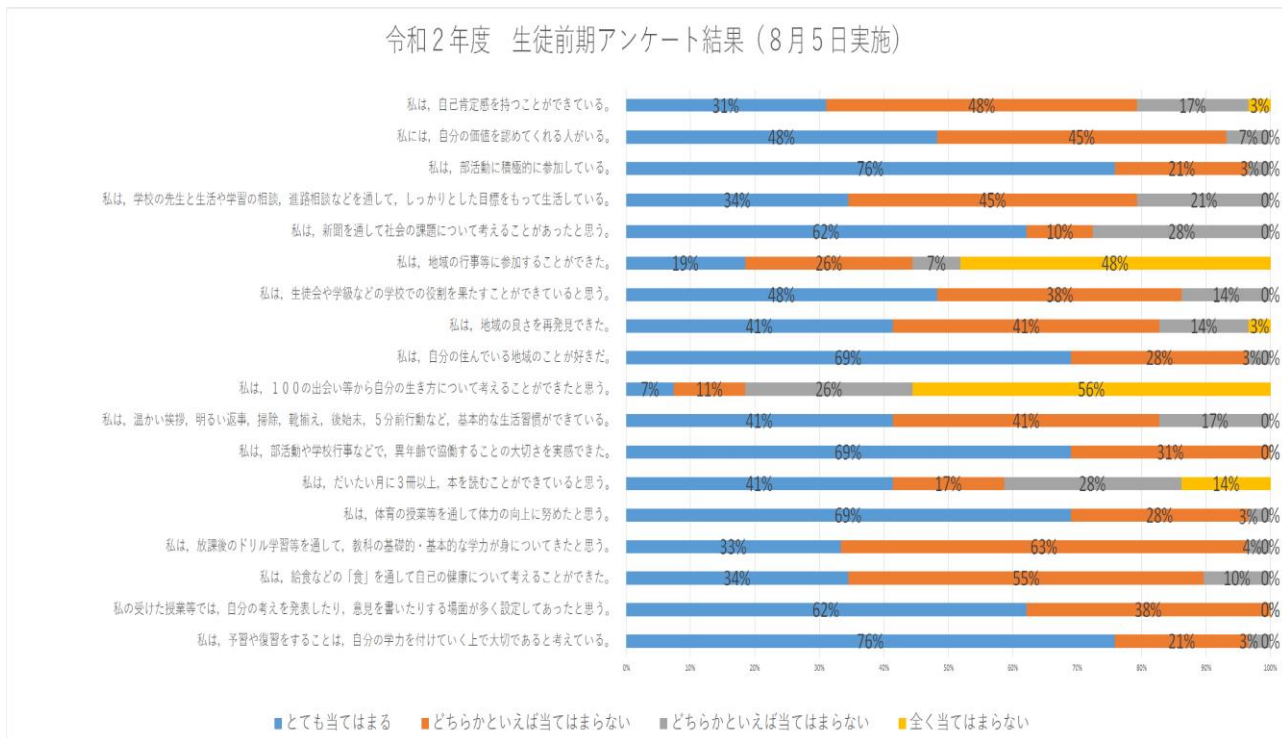
なお、学校評価に関する資料は学校ホームページに公開する予定ですので、ぜひご覧ください。



評価計画(中期経営目標を設定してから 1・2・③ 年目)						自己評価		
重点	d 中期(3年間)経営目標	e 短期(今年度)経営目標	f 目標達成のための方策 (こんなことをして達成します)	g 指標 (効果を見とる目安)	h 目標値	上半期		
						i 達成値	j 達成度	k 評価
*** 変化に対応して挑戦でき、「深く」「先を見て」考え行動する生徒を育てる	④	知識・技能の確実な定着 ★確実に定着させた学習内容を活用し、困難や変化を多面的にとらえ、解決しようとする生徒の育成	○読書活動を充実させる。	・月の読書冊数の平均が3冊以上である生徒の割合	80%	58.60%	73.30%	C
			○生徒に予習・授業・復習の学習の流れを意識させる。特に予習や復習で学習した内容を授業に結びつける授業展開に取り組む。	・生徒アンケートで、予習や復習に意義を感じている生徒の割合	90%	96.60%	107.30%	A
			○帯時間を活用し、基礎的・基本的な学力の定着を図る。	・生徒アンケートで、帯時間を活用したことで基礎・基本の力が付いたと感じた生徒の割合	90%	96.30%	107%	A
			○体力つくりのためのサーキットトレーニング等の習慣化	・生徒アンケートで体力向上に努めたとする生徒の割合	80%	96.55%	120.68%	A
				・個々の課題になっている項目の記録が向上した生徒の割合	80%	63.16%	78.95%	C
		思考力・判断力・表現力の育成 ★グローバルな視点や多様な考え方を踏まえて先を読み、課題解決や未来を拓くための行動ができる生徒の育成	○「教えて考えさせる授業」を展開し、主体的・対話的で深い学びに向けた授業スタイルを確立する。	・授業者アンケートで生徒が主体的に学習できるような授業づくりに取り組んだ教員の割合	100%	87.50%	87.50%	B
			○生徒が学んだことを整理したり、表現したりする場を多く設定する。	生徒アンケートで、自分が考えたことを表現する場面が多かったと回答した生徒の割合	80%	100%	125%	A
			○ONIE実践指定校として、新聞を活用し、社会で起きている様々な事を調べさせたり、その中で見付けた課題を整理させたりする。	・生徒アンケートで、新聞を通して社会の課題について考えることができた生徒の割合	90%	72.40%	80.40%	B
			○授業において、学期に一度以上ICTを用いた授業に取り組む。	・授業者アンケートで、学期に一回以上ICTを用いた教員の割合	100%	44.44%	44.44%	D
			④ 地域を愛し協働して貢献でき、夢を抱き夢への道を拓く生徒	自己の生き方を考える力の育成 ★夢を持ち、夢を語り、志高く自己の生き方を考え、地道によりよく生きるための努力をする生徒の育成	○適切な機会を利用してキャリア教育の展開し、自己の進路について考えさせ、自分の進路について話す機会を設定する。	・自分の進路について話をする機会を年間2回以上設定し、実践できた割合	100%	44.44%
○「未来を拓く100のあい」で多くの生き方に触れる機会を設定し、生徒に自己の生き方について考えさせる。	生徒アンケートで、自分の生き方について考えることのできた生徒の割合	90%			18.50%	20.60%	D	
○食に関する指導及び健全な食生活を考えさせる機会をつくる。	・生徒アンケートで、「食」を通して自己の健康について考えることのできた生徒の割合	80%			89.65%	112.06%	A	
協働的に関わる力の育成 ★地域や仲間を愛し、相手の気持ちを尊重して協働し、積極的に貢献しようとする生徒の育成	○総合的な学習の時間を中心とした「ふるさと学習」で、郷土愛を育成する。	・生徒アンケートで、自分の住んでいる地域が好きになった生徒の割合		100%	96.60%	96.60%	B	
	○異年齢の生徒同士が協力して取り組むことができる行事を設定し、協働的に関わることの大切さを体験させる。	・生徒アンケートで、異年齢で協働することの大切さを実感した生徒の割合		100%	100%	100%	A	
	○生徒一人一人に学校での役割を与え、その役割に真剣に取り組ませ、達成感を感じさせる。	・生徒アンケートで、自己の役割を果たすことができたと回答した生徒の割合		90%	86.20%	95.77%	B	
	○地域行事への積極的な参加を促す取組	・生徒アンケートで、地域の行事等に参加した生徒の割合		90%	34.48%	38.31%	D	
④ 働き方改革の視点で業務改善を行う	組織的な協働による効率的な仕事分担	○積極的にコミュニケーションをとることを通して、お互いの得意分野を知り、効率のよい業務の運営に生かす。	・毎月の全教職員の時間外在校等時間の平均を45時間以内とする。	100%	31.09時間 毎月クリア 100%	100%	A	
		○職場の中で、業務改善を意識した意見を出し合ったり、教育環境を整えたりすることで積極的に業務の見直しを行う。	・教職員アンケートで、業務改善を意識した意見を出し合ったり、教育環境を整えたりすることで業務改善が進んでいると回答した教職員の割合	80%	81.80%	102.25%	A	

【k: 評価】
A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100
C: 60≦(もう少し)<80 D: (できていない)<60

【生徒アンケートの結果】



【保護者アンケートの結果】

